

ツール3：リッチピクチャー

共通する状況についてステークホルダーに深く考えさせてくれるツール

このツールの目的

状況全体の複雑さを参加者に理解させる。

このツールを使うタイミング

関係構築ステージにおいて、重要な問題についてステークホルダーに深く考えてもらいたいとき。また、すでに確立したMSPで状況のレビューを行う際に用いることもできる。

リッチピクチャーとは

リッチピクチャーとは、ある状況を絵にしたもので、何らかの改善のための介入を行おうとする際に考慮すべき主要要素と関係性を描いている。リッチピクチャーは絵や文章、シンボル、アイコンで構成され、これらすべてはその状況をグラフィックに描くために使われる。「リッチピクチャー」という名称の由来は、それが状況のリッチさ（関係性の豊かさ）と複雑さを描くものだからである。

なぜリッチピクチャーを描くのか

リッチピクチャーを用いることにより、状況全体の複雑さを理解することができるようになる。これは物事を俯瞰的に考えるためのツールだ。このツールは「一枚の絵は千の言葉に値する」という考えに基づくものだ。また、人間の直感力は、言葉よりも印象やシンボルをよりよく理解するという事実にも基づいている。絵は、ある状況についての洞察を生み出すと共に、脳に刻み付けることができる。

リッチピクチャーを用いることで、このツールを使わなければ見逃していたかもしれない関係性やつながりを理解することができるようになる。また、さらに深く考察を加え、対応したいと参加者が考える一つあるいは複数のテーマを特定するのにも役立つ。そのため、リッチピクチャーは、必ず分析フェーズの前に使うようにする。

リッチピクチャーを描くことは、グループアクティビティに最適だ。なぜなら、全員がリッチピクチャーに何かを付け加え、自身が持つ特定の関心事や見方を説明することができるからだ。また、リッチピクチャーは、さまざまな見方や対立を、雰囲気壊すことなく楽しみながら描き出す方法となり得る。

リッチピクチャー- ステップ・バイ・ステップ

以下のステップを用いることで、5~7人のグループでリッチピクチャーを描くことができる。少なくとも1~1.5時間は確保するようにすること。

準備

- 大きめのフリップチャートもしくは模造紙を用意する。
- 用意した紙をテーブルまたは地面の上に広げ、全員が絵に何か書き加えられるような形で紙の周りに座るか、あるいは立つ。全員にマジックが行き渡るようにすること（1つのグループ内では、それぞれ異なる色のマジックを持つようにする）。
- 誰か一人がグループのファシリテーター役を務める。全員が何か書き込むように図り、絵がうまくなくても構わないことをはっきり言うておくことは極めて重要。
- 事例を1つ選ぶ。グループとして、その事例についてのリッチピクチャーを「1つ」だけ描く。

スタート

中央に、MSPにとっての重要な課題となっている問題のある状況を描く。現在の状況を描く。

- ・ 描画を始める。話し合いや議論で始めないこと。絵を描きながら説明すること！
- ・ ステークホルダーは誰で、その問題や課題に彼らはどう関係しているのだろうか？
- ・ ステークホルダーがお互いにどう関わっているのかを描く。
- ・ その状況の背景や原因、結果、また関係するその他の社会的・経済的・政治的・環境的事柄や課題を描く。
- ・ 事実と主観的な情報を両方とも描くようにすること。
- ・ 画中のステークホルダーや問題について説明する解説や短文を付けることもできるが、長文にならないようにすること。

ラップアップ

グループで作ったリッチピクチャーから浮かび上がってきた、当該MSP事例に関する5つの最も大きな課題をカードに書き留める。

例

この写真は、CDIが毎年開催する[MSPコース](#)の参加者の手によるウェットランド管理の状況を描いたリッチピクチャーだ。ステークホルダー（資金提供者、NGO、地元政府、漁師）とファクター（力関係の問題、乱獲、対立、資金の流れ）を見ることができる。



フィリピン・ケソン市から来たFlomella S. Alilio-Caguiclaが、比較的シンプルなりッチピクチャーについてのクリエイティブなプレゼンを行ってくれた。彼女は、「持続可能な生産システムへの移行」に関する2012年のCDIのコース参加者だ（彼女のパワーポイントを見たい方は[こちら](#)から）。

さらに知りたい方は：

英国のオープン・ユニバーシティ（Open University）は '[rich picture about rich pictures](#)'（「リッチピクチャーについてのリッチピクチャー」）を作成した。ここでは、参加者にまず各自でリッチピクチャーを描き、それをグループディスカッションのベースにするよう言うというオプションも提示されている。さまざまなリッチピクチャーを比べることで、さまざまなものの見方や想定が明らかになり、そうしなければ挙がってこなかった可能性がある問題を浮かび上がらせるかもしれない。

オープン・ユニバーシティはまた、リッチピクチャーのコンセプトについて深掘りする[8つの動画シリーズ](#)と、画像をコミュニケーションツールに生まれ変わらせるさまざまな方法を公開している。